

第8回土岐川庄内川流域委員会 議事要旨

日時 : 平成17年8月30日(火) 14:00~17:15

場所 : 名古屋通信会館 3F 桐楓の間

1. 開会

2. 挨拶(中部地方整備局 庄内川河川事務所長)

3. 議事

第7回土岐川庄内川流域委員会議事要旨の確認
第7回流域委員会議事要旨が確認されました。

庄内川水系河川整備基本方針について

河川整備基本方針検討小委員会(社会資本整備審議会河川分科会)の資料(平成17年4月12日小委員会)により、現在、審議されている庄内川水系河川整備基本方針(案)について報告しました。

土岐川庄内川コレカラプロジェクトの実施状況と今後の進め方について

市民意見交換会やオープンハウス、車座集会等における流域住民の意見をとりとまとめた「コレカラボイスその2【整備の考え方編】」など、地域懇談会の実施状況や今後の進め方について説明し、次の意見を頂きました。

また、次回の流域委員会において、整備目標と整備メニューをとりとまとめた「コレカラプロジェクトレポート2」の素案を基に議論いただき、その内容を踏まえレポートを発行することが確認されました。

- ・市民意見交換会から出た4つのテーマ別グループの提言でそれぞれ関係してくるものもあるため、組み合わせを考えていくのもよい。
- ・この地域が持っている元々の土地の成り立ちの視点から、必要な生態系や防災的な面など、庄内川の将来像がまとめられるのではないかと。
- ・現在、様々な問題に対して、県や市町等の関係機関とどのように調整を図り、どのように連携しているかなどの状況を明らかにして欲しい。
- ・整備計画を進めていく上で、関係機関と具体的にどのようなことについて、どのような連携が必要か、各委員で考え次回に議論することにする。
- ・市民から多くの具体的整備に関する意見が出ていることから、優先順位や目標の立て方について整理していく必要がある。

平成16年の豪雨災害を踏まえた治水対策のあり方について

新潟・福井等の平成16年度の豪雨災害に関する映像による記録(ビデオ)、それらを受けた豪雨災害対策総合政策委員会(社会資本整備審議会河川分科

会)における提言、本年3月に実施した福井豪雨視察でいただいた感想・意見を紹介し、H16年の豪雨災害を踏まえた治水対策のあり方について次の意見を頂きました。

- ・福井視察にて洪水時の流木の影響の大きさとそれに対する対策の必要性を認識し、山林の保全にも目を向けていくことの重要性を感じた。
- ・自ら洪水被害を受ける頻度を考えると、一般市民が防災に対して意識を持ち続けることは大変困難なことと感じた。
- ・一般市民が防災に対する意識を維持していくことが困難なか、それらを補う河川行政や一般行政等の役割があり、防災に対する体制を維持していく仕組みが必要である。
- ・H16豪雨災害のように非常に現実的な治水面の優先順位と、コレカラボイスその2での一般市民の目線での優先順位にはギャップがあり、そのギャップが広がらないようにしていく必要があると感じた。
- ・ハード整備の範囲を超える事態に対して、公助、自助における責任の線引きが曖昧のまま今まで議論がなされてきているため、まずそれらを明確にした上で議論すべき。
- ・基本方針の将来レベルとの差、また整備計画を進めていく途中段階でも、その整備水準を越えた時の危機管理や守りきれない部分への対応も考えていく必要がある。
- ・H16豪雨災害の教訓を踏まえ庄内川の河川整備計画として、ハード整備だけでなくソフト対策についても具体的に記載できるように議論をしていく。
- ・堤防がどこで切れたらどういう被害が出るのか、危機管理という視点で様々なシーンに対して被害想定をしていく必要がある。
- ・不動産取引時に洪水などの防災に関する説明義務を課すような制度があってもいいと思う。

次回の議題について

次のことが確認されました。

- ・第9回の流域委員会では、今回の議論を踏まえた整備計画の目標、メニューを示すこと。

4．閉会のあいさつ（中部地方整備局 庄内川河川事務所長）

5．閉会